



口腔保健学科の私たちは、1年生の後期以降、徳島市内の高齢者施設や徳島文理大学付属幼稚園で、臨床基礎実習や体験実習を重ねてきた。また、障害者施

キャンパスリポーターが行く

13

徳島文理大学 口腔保健学科4年 藤川慶乃 (21)

システムティック臨床実習

設、保健所、歯科診療所、大学病院などでも実習を行った。教育、福祉、医療の多様な現場での学習だ。システムティック臨床実習と呼んでいる。

院外から治療に訪れた歯科医師と歯科衛生士は、院内の歯科衛生士から患者の直近の状態を聞き、くまなく行っている歯の抜歯を短時間で進めていた。

高齢者施設では、要介護状態の進行や老いについて考えながら、食事支援や摂食嚥下リハビリテーションを学んだ。幼稚園の実習では、食育などを通じて園児の成長を実感した。口の健康が全身の健康につながることを実践の場で習得することができた。

院内の歯科衛生士は、医師、看護師、理学療法士、作業療法士ら多職種と連携しながら、口腔ケアなどに携わっていた。口腔や全身に關係する危険因子を常に見極め、歯科医師の診療が必要と判断した場合には、訪問歯科診療の手配をする。病院の中と外の両方で他の専門職種と連携した迅速な「歯科衛生士の働き」を目的とした。また、入院患者は必ず何らかの疾病にかかっている

歯科衛生士の役割学ぶ



要介護高齢者マネキンを使った口腔ケアの実習をする藤川慶乃さん(右)と徳島文理大

そんな中、診療所への通院が困難な高齢者に向けた訪問歯科診療の必要性を痛感した。そして、歯科衛生士の役割の幅広さを知った。4年間の授業を通して、看護学科、理学療法学科、人間福祉学科など、他学科の学生と共にチーム医療や福祉について勉強した。歯科分野だけではなく、医学に関する幅広い知識を習得することができた。

私自身は県外の大学病院への就職が内定している。同級生も大手歯科関連企業への就職が決まるなど、口腔保健学科の卒業生は、歯科診療所だけでなく、広い分野に進むことができる。

ため、歯科衛生士は疾患や服薬についての理解を深め、おくことが不可欠である。と分かった。口腔乾燥や顎骨壊死、止血不全など、薬を飲むことによって起こる副作用や注意点を理解した

上で、口腔衛生管理を行わなければならないのだと学んだ。近年、平均寿命の延長や興味を持って体験し、将来の可能性を広げてほしいと思う。